

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年（国語、算数、理科、児童質問調査）

中学校 第3学年（国語、数学、理科、生徒質問調査）

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 57人 |
| ② 算数 | 57人 |
| ③ 理科 | 58人 |

5 留意事項

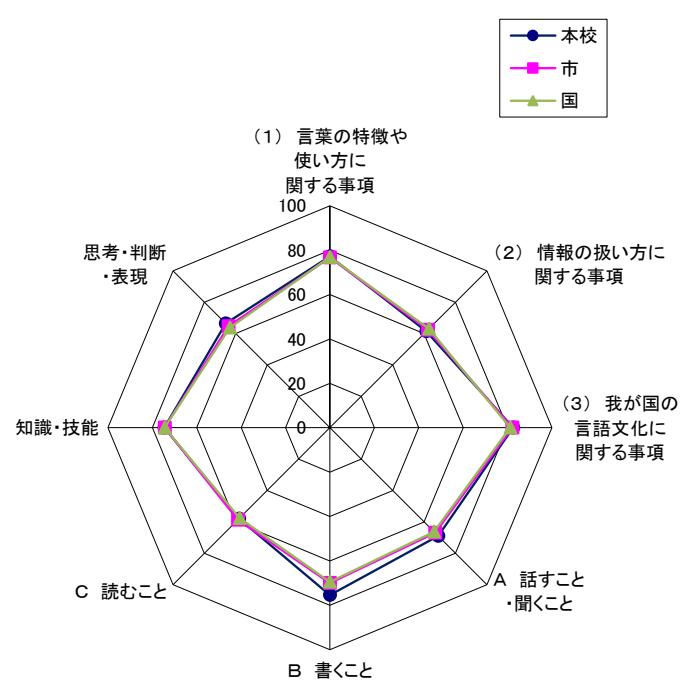
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	77.2	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	61.4	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.5	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	69.0	67.0	66.3
	B 書くこと	75.4	70.0	69.5
	C 読むこと	57.9	58.6	57.5
観点	知識・技能	74.6	74.5	74.5
	思考・判断・表現	66.5	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

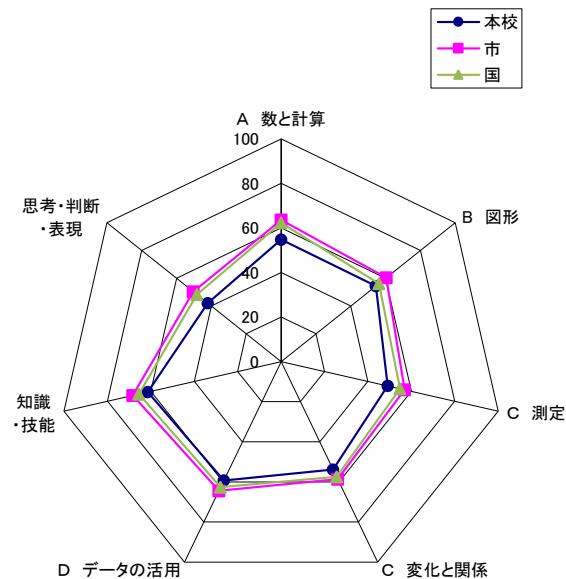
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は77.2%で、市の平均を0.5ポイント上回っている。 ○漢字を文の中で正しく使うことができている。 ●文脈に合わせて、同音異義語の漢字を使うことに課題が見られる。	・さらに語彙を豊かにできるように、国語の授業や朝読書、他教科でのふり返りなどで、語感や言葉の使い方を意識させる。 ・ICT端末を活用する際には、書く目的や意図に応じて、同音異義語から文章に合う漢字を選ぶよう指導する。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は61.4%で、市の平均を1.0ポイント下回っている。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題が見られる。	・図示することによって情報を整理し、語句と語句との関係を表して考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるよう、様々な学習活動に取り入れる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は82.5%で、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ○世代による言葉の違いに気付くことができている。	・世代によって呼び方が違う言葉を集める活動や、教科書の文章や本に出てきた語句を国語辞典で調べる活動などを取り入れる。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は69.0%で、市の平均を2.0ポイント上回っている。 ○話し手の考え方と比較しながら、そのように発言した理由を理解することができている。	・今後も、ペアやグループ活動を積極的に行い、目的に沿った話合いの指導を継続する。 ・より学びを深めるために、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、自分の考えをまとめられるよう指導する。
B 書くこと	平均正答率は75.4%で、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○目的や意図に応じて、詳しく書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができている。	・文章を書く際には友達と話し合い、読み手の立場からアドバイスをし合う場面を設定し、目的に応じて簡単に書くことと、詳しく書くことの効果を実感できるようにする。
C 読むこと	平均正答率は57.9%で、市の平均を0.7ポイント下回っている。 ○目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることができている。 ●文章全体の構成を捉えて、要旨を把握することに課題が見られる。	・文章の要旨を把握することの必要性を感じられるように、対話の中で友だちと考えを伝え合ったり、自分の経験や知識を結び付けて考えたりしながら、文章を読む活動の目的を明確にできるよう指導する。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	54.8	63.6	62.3
	B 図形	54.4	60.4	56.2
	C 測定	49.1	56.9	54.8
	C 変化と関係	53.8	58.6	57.5
	D データの活用	59.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	61.4	68.3	65.5
	思考・判断・表現	42.1	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

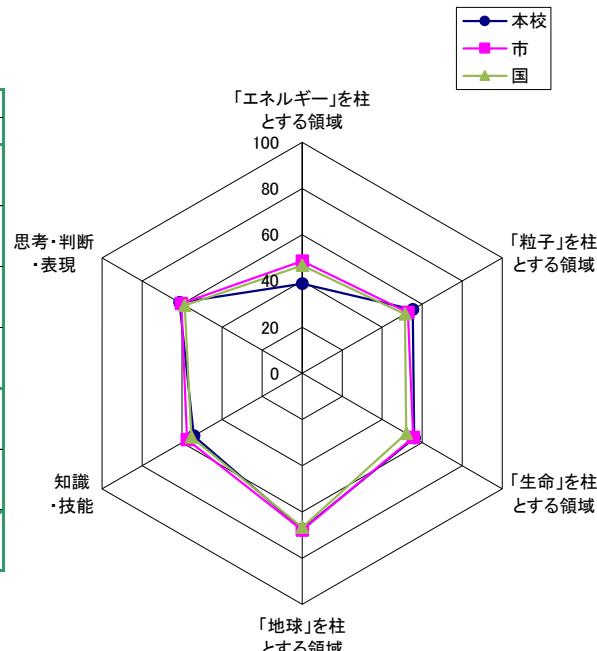
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の重点	
A 数と計算	平均正答率は54.8%で、市の平均を8.8ポイント下回っている。 ○異分母の分数の加法の計算をすることができる。 ●分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加法と被加法が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述する問題に課題が見られる。	・日常生活で活用する場面と関連付けて、基本的な計算能力を形成していくために、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。 ・基本的な四則計算の定着に向けた練習を継続する。 ・計算の仕方について他者へ分かりやすく説明し、表現する場面を意図的に設定する。	
B 図形	平均正答率は54.4%で、市の平均を6.0ポイント下回っている。 ○角の大きさについて理解している。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題に課題が見られる。	・解答をする際に、自分の考えを文章で表現できるよう、ノートに自分の考えを書く場面を授業の中で多く取り入れる。 ・作図をする際に、どんな性質を用いて作図しているのか説明する活動を授業の中に取り入れる。	
C 測定	平均正答率は49.1%で、市の平均を7.8ポイント下回っている。 ●はかりの目盛りを読む問題に課題が見られる。	・最小目盛りの大きさを正しく捉えることができるよう、最小目盛りの大きさが異なるはかりを用いて測定したり、大きな目盛りからおよその重さを捉え、小さな目盛りと組み合わせて正確に読み取ることができるようにする。	
C 変化と関係	平均正答率は53.8%で、市の平均を4.8ポイント下回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題に課題が見られる。	・日常の事象に即して考えられるように、問題場面を工夫し、実感を伴いながら理解を深められるようにする。 ・求め方を式や言葉を用いて表現する場面を意図的に設定する。	
D データの活用	平均正答率は59.3%で、市の平均を5.1ポイント下回っている。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題に課題が見られる。 ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られる。	・目的に応じて差を求めたり、何倍かを求めたりすることで項目間の関係を読み取ることができるようになる。特に、何倍かを読み取る際には、棒グラフは数量の大きさを一目で捉えることができるという特徴を生かせるようになる。 ・目的に応じて必要なデータを収集し分類整理したり、表やグラフに表したりすることで、データの特徴や傾向に着目して考えられるように指導する。	

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	38.8	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.2	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	56.0	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	67.5	67.9	66.7
観点	知識・技能	54.1	57.5	55.3
	思考・判断・表現	61.3	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の重点	
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は38.8%で、市の平均を9.8ポイント下回っている。 ●ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く設問では、操作とそれに伴う現象との関係を言葉で表現することに課題が見られる。	・観察、実験の結果や結論を、図に整理したり、言葉で説明したりするなど、知識と関係づけて理解を深められるように引き続き指導する。 ・実験において、電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを考察する際に、「巻数を増やす」などの条件を表す言葉や、「電磁石が強くなる」などの現象を表す言葉を使い分けて説明する学習活動を多く取り入れる。	
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は55.2%で、市の平均を2.4ポイント上回っている。 ○海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ設問では、「水は冷えると0°Cで氷に変わる」ことを根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができている。 ●アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当たるものを選ぶ設問では、電気を通すものと磁石に引き付けられるものに関する知識の定着に課題が見られる。	・既習事項を基にして、自分の考えを表現することができるので、今後も継続して予想、実験、結果、考察、まとめの流れを重視し、児童に自分の言葉でまとめられるように指導の充実を図る。 ・学習した知識を身の回りで見られる事物・現象と関連付けたり、様々な内容で習得した知識を整理したりして、物質の性質に関する理解を深められるように指導する。	
「生命」を柱とする領域	平均正答率は56.0%で、市の平均を0.5ポイント上回っている。 ○レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見出した問題について書く設問では、既習の植物の発芽の条件との差異点や共通点を基に、新たな問題を見出し、表現することができている。 ●ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ設問では、正しい解決の方法を発想できるかどうかに課題が見られる。	・予想や仮説を基に、実験に関するすべての条件を明確にした上で、どの条件を変える必要があるかを検討したり、他の条件は、すべて同じになっているかを確認したりする。 ・実験に関する条件が多いときは、図や表などに整理したり、実験前に計画を見直したりして、検証したい条件のみが変わっているかを確認する時間を確保する。	
「地球」を柱とする領域	平均正答率は67.5%で、市の平均を0.4ポイント下回っている。 ○水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く設問では、結果を基に考察し、問題に対するまとめの理由を適切に表現することができている。 ●水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く設問では、変える条件と変えない条件を整理しながら解決の方法を発想できるかどうかに課題が見られる。	・結果を基に考察する際に、表やグラフなどに整理する活動を設けることで、結果を比較したり、複数の結果から多面的に考えたりして、自分の考えを表現できるように引き続き指導する。 ・検証計画の立案で十分な活動時間を設け、条件制御の必要性を確認した上で、予想や仮説を基に、条件を制御した場合の結果の見通しについての話し合いなどをを行い、児童自ら条件を制御した計画を立てることができるような授業改善を引き続き行う。	

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と回答した児童の割合は100%だった。日頃から学校としてしっかりと取り組んでいることの成果と考えられる。今後も、教育相談の時間を確保し、定期的にアンケートを取って指導に生かしたり、児童のわずかな変化も見逃さないように配慮したりするなど、継続して取り組んでいく。

○ICT機器の活用では、「プレゼンテーションを作成することができる」「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と回答した児童の割合は、いずれも全国平均を10ポイント以上上回つており、総合的な学習においてだけでなく、他の教科においても活用している成果が表れている。今後も、課題に沿って自分の考えを入力し、その後、友達の考えと比較することで考えが深まるような、ICT機器を活用した指導を工夫していく。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問では、児童の肯定的な回答をした割合が93.4%で、全国平均を10.1ポイント上回った。これは、普段から「自分たちの学校を自分たちでつくる」ことを一人一人がしっかりと認識し、自分事として話し合っていることの表れであると考える。また、「話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」児童も全国平均に比べて5.8ポイント多いことから、話し合いの内容が深まっていることが分かる。

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した児童の割合は100%で、全国平均を9.6ポイント上回っている。これは、社会生活の基本であるコミュニケーションの手段として用いられる「聞く・話す・読む・書く」の習得を目指す中で、国語の果たす役割の大きさを感じている結果と考えられる。今後も、様々な活動を通して主体的に学習に取り組む態度を育していく。

●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」の質問では、肯定的回答は57.7%で、全国平均を5.5ポイント下回った。しかし、「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の質問では、肯定的回答した児童が90%いることから、教科の学習内容が大切なことだと考える児童が多い。授業の中で、疑問をもったり、生活場面を想像してどこで役に立つのか話し合ったりすることで、理科の思考が深まるのではと考える。

●「算数の勉強は得意」と回答した児童の割合は51.7%で、全国平均を8.6ポイント、「算数の授業の内容はよくわかる」と回答した児童の割合は71.7%で、全国平均を6.6ポイント下回っている。「算数の授業で学習したことが社会に出たときに役立つ」と回答した児童は96.7%で9割を超えており、必要感を感じながらも、算数への苦手意識が高い傾向にある。プリントやドリル等で基礎基本の定着を図るとともに、児童一人一人が自分にあった課題を選べるようにし、スマールスステップで着実に自分の力で進めていけるようにする。

宇都宮市立緑が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本を定着させるための取組	・「宇都宮モデル」を活用し、どの授業においてもねらいを明確にし、「はっきり！じっくり！すっきり！」を合言葉に、課題をはっきり理解し、課題解決にじっくり取り組み、学んだことをすっきり納得できるような指導を行っている。	・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童は、85%である。 ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している児童は、70%である。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・他者との交流や自分自身の問い合わせ、目的に応じた1人1台端末の活用など、児童が多様な方法を選択し、組み合わせながら、粘り強く主体的に学習に取り組むことができる授業改善を行っている。	・1人1台端末を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる児童は、90%である。また、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童は96.6%である。 ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じている児童は、86.7%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、特に算数への苦手意識が高く、全体的な正答率も低い傾向が見られる。また、理科の「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が低い。 ・自分の考えをうまく伝わるように、話の組立てを工夫して発表することがあまりできていないと感じている児童が多い。	・児童が課題解決に必然性を感じ、目的意識を明確にして取り組むことができる単元づくり、授業づくり	・内容や時間のまとめを意識し、児童が見通しをもって取り組むことができるような単元展開をする。 ・目的や意図を明確にして、考えを伝え合うことのよさが実感できる授業改善を進める。